

ノーマルの走りを知らずして開発できず!



JB64が納車されてから毎日、街中とオフロードコースで走り込んでいます。JB23とは乗り味が異なるので、完全に専用セッティングしないと満足できるサスは完成しません。どんな状態でもトラクションが強く掛かることを追求しています。



取りあえずは3タイプを試作して徹底的にテスト走行します!



ノーマルで走ったワイリーングを参考に、異なる3タイプを試作。納得できるモノがありませんように!

キャンパー地形、ステアケース、ヒルクライム&ダウンなどで徹底的に走り込みます。
 幸い当店は田舎にあるので、交通量も少なく峠道や砂利道などテストするには不自由しません。そして自社でオフロードコースも持っているため、最終テストも好きなだけテストできるのが強みです。
 サンプルのcoil&ショックは注文後、2〜3ヶ月ぐらいかかります。それからようやくテストとなるのですが、うまくセッティングが出ない場合はサンプルの作り直しとなり、さらに2〜3ヶ月。求めている物が出来ても商品

化になるまでは、それからさらに2〜3ヶ月。だからサスペンション開発は販売までには最低でも6〜7カ月の期間が費やされるのです。
 それでも今回のJB64用サスペンションは7月5日の発売と同時にスタート!工場に全ての数字的要素を伝えただけで、サンプルは思っていたよりも早く入荷しました。
 いやいよ次回はテスト走行です。ちなみに今回のサスは今迄とはちよっと違う製法で作ったので、それを取り付けてテストするのが超楽しみです。もちろん想像と違っていたら全て作り直しです。

奥深い世界の裏側を紹介

K-PROのJB64用サス

開発物語 2

生産が追いつかないJB64&74だけど、ぼちぼちと納車され始めた。パーツを作る側としては時間が確保できるものの、やはり一日でも早く完成させてユーザーからの評価を聞きたいところ。さて完成は何時になる?

JB64の注目度は予想以上!
 早速前回の続きからいきます。もし前回を読んない方はジムニープラスNO83を買って読んで下さい!
 JB64の注目度が高いこともあり、あの記事が載ったから電話の問い合わせがいつも格段に多いです。問い合わせの内容は「新しいサスペンションはもう出来ましたか?」とか「いつ頃販売になるのですか?」がほとんどです。
 一日でも早く販売したいのは本音ですが、サスペンション開発にはとても時間がかかります。そして本当に良い

物を作ろうとした場合、さらに時間とお金が掛かってしまうのです。
 また、サスペンションには絶対的な「正解」はありません!ここで言う「正解」とは万人向けという意味です。
 この記事を読んでいる読者の方にお伺いしますが、あなたはサスペンションを購入しようと思った時に何を基準に選びますか?値段ですか?ショックの知名度ですか?coilスプリングやショックアブソーバーの色?
 もしこれらの基準で選んでいるとすれば、あなたが求めているサスペンションと巡り合えるのは時間がかかるでしょう。何故か?通常サスペンション開発を行う場合、決めなければならない

JB23用で培ったノウハウを基に試作品を注文



メーカーから送られてきたcoilスプリングの試作品です。個々にバネレートや重量が記載されています(数値は内緒!)。
 このようにある目的のもとに作られる訳ですから、使い方や条件が合わなければ、いくら高価なサスペンションでもその人にとってはいらない物にならないサスペンションとなってしまふのです。
 「あの人が取付けていたから」「あの人が良いって言われたから」「雑誌で良い評価されていたから」...と言うことに惑わされないように!同じジムニー用サスペンションでも万人向けの商品はないと言うことを頭に置いて自分の車に合ったサスペンションを選ぶことを

例えは1人で運転している時と3人乗せて運転している時のサスペンションでは動きが違う...と多くの人が感じると思っています。
 それと同じようにトラックとか荷物を積むために作られたクルマは荷物を積んだ時に柔らかく、空荷の時は硬く感じることがあるでしょう?
 ショックアブソーバーはcoilスプリングとの共同作業で、サスペンションとしての仕事をしますが、それぞれの役割分担は違います。仕事の中心的存在になるのはcoilスプリングです。そしてcoilスプリングの動きをサポートすると言いか味付けするのがショックアブソーバーで、お互いを邪魔すること無くサスペンションとして機能します。
 K-PROのオリジナルサスペンション開発の場合、まずcoilスプリングはバネレート違いで数台分、ショックアブソーバーは14段切替式を1台分作ります。coilスプリングは定数違いをさらに何通りか組合わせてテスト走行するのです。
 テストする場所は直線の多いオンロードから始めてヘアピンが多い時、そして砂利道、最終的にオフロードコースでハイスピード走行、モーターゲル地形

い事が多くあります。
 作ろうとしているクルマに関して
 ①何名乗車用なのか?
 ②リアシートオーソペアータイヤを装着するのか?など重なる事。
 ③どこどこを走らせるのか?
 ④主につかうスピード領域は?
 もっともっと沢山の項目があるので、ザックリとこんな感じでクルマの仕様や用途が違えば、好みと合わないのは当たり前です。
 純正サスペンションも同じように使用条件があり、それを元に開発されています。



K-PRODUCTS 今社長
 社長業が多忙になり「あまりジムニーで遊べない」のがここ数年の大きな悩み。それでも暇さえあれば林道や自社管理のオフロードコースでジムニーを乗り回している。自他共に認めるジムニー大好き人間。